

「4A 基礎講座」と連動し、さらなる相乗効果を図る！それが「4A 実践答練」

本試験合格に必要な十分な、
「4A」に基づくノウハウと知識を体得！

4 A 基礎講座



「4A」を使いこなせるようにし、
論文答案作成能力を実践的に養成！

4 A 実践答練

司法試験

基礎答練 全20回

予備試験・法科大学院入試の大半で出題されるような
「**基礎的な良問**」を出題します。

法科大学院入試どころか予備試験も、これまでに出版された論文式問題は、「基礎的な良問」と言われるものが大半を占めます。まずは、このような問題で確実に合格点をとれるよう、「4A」によって論文式問題を解くパターンを確立し、これを安定して使えるようになります。

目的

- 「4A」によって論文式問題を解くパターンを確立する。
- 確立したパターンを基礎的な論文式問題で安定して使えるようになる。

カリキュラム

憲法	3回	民事訴訟法	2回
民法	5回	刑事訴訟法	2回
刑法	3回	行政法	2回
商法	3回		

使用教材

- ◆ 問題
- ◆ 解説レジュメ・答案例
- ◆ 答案添削
- ◆ 講評・受講生の答案

応用答練 全3回

予備試験・法科大学院入試でいくらか出題されている
「**応用的な難問**」を出題します。

予備試験や法科大学院入試でいくらかは出題されている応用的な“難問”でも、基礎答練で確立したパターンをブレずに使いこなせるように訓練しましょう。また、論文本試験と同様、1回の答練で複数の科目を出題するので、その同時並行的な予習をすることで、論文本試験直前期をシミュレートしておきましょう。

目的

- 基礎答練で確立したパターンを応用的な難問でもブレずに使いこなせるように訓練。
- 本試験直前期に備えて、複数科目の同時並行的な予習に慣れておく。

カリキュラム

公法系	1回	(憲法・行政法)
民事系	1回	(民法・商法・民事訴訟法)
刑事系	1回	(刑法・刑事訴訟法)

使用教材

- ◆ 問題
- ◆ 解説レジュメ・答案例
- ◆ 答案添削
- ◆ 講評・受講生の答案

【基礎答練・応用答練】講義の進め方

論文答案作成 (120分前後)

制限時間内に、論文式問題の答案を作成していただきます。
本試験と同様に、六法(条文)しか参照できない状況で、実践力を鍛え上げましょう。
毎回、目標を立てて(ex:答案構成時間を短時間・長時間にする、問題文の事情をすべて使う等)目的意識を持って答練に臨めば、飛躍的に実力が向上していきます。

休憩

4A 解説講義 (60分)

「4A」に基づいて、問題文をどのように読み、どのように解いて答案化すべきだったかという実践的な解説講義をします。自分の問題文の読み方・解き方と照らし合わせて、「4A」の使い方を「実戦」対応していきます。併せて、答練の際に自分で立てた目標を達成できたかどうか反省・分析し、次の目標へとつなげていきましょう。